

【実践報告⑤】

生徒の自ら学ぶ力を育成するための成功体験の生かし方 及び振り返りの在り方について

愛知県立松平高等学校

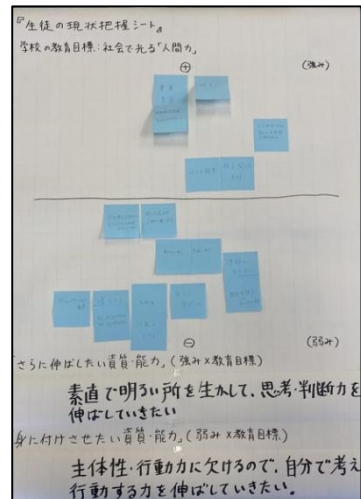
1 はじめに

松平高校は、開校から77年の伝統校であり、松平氏発祥の地である豊田市南部の自然豊かな山あい立地している。各学年普通科3クラス、ライフコーディネーター科1クラスの中規模校であり、約4割の生徒が4年制大学や短期大学、専門学校に進学し、約6割の生徒がトヨタ自動車をはじめとする地域の企業に就職する。他校に比べ、早く社会に出る生徒が多いため、本校は「社会で光る『人間力』」を教育目標にしている。



特色ある部活動の一つ松平わ太鼓部

【資料1 生徒の強み・弱み】



【資料2 研究構想図の上部】

2 実践

(1) 研究構想図の作成・周知と研究主題と実践内容の共有

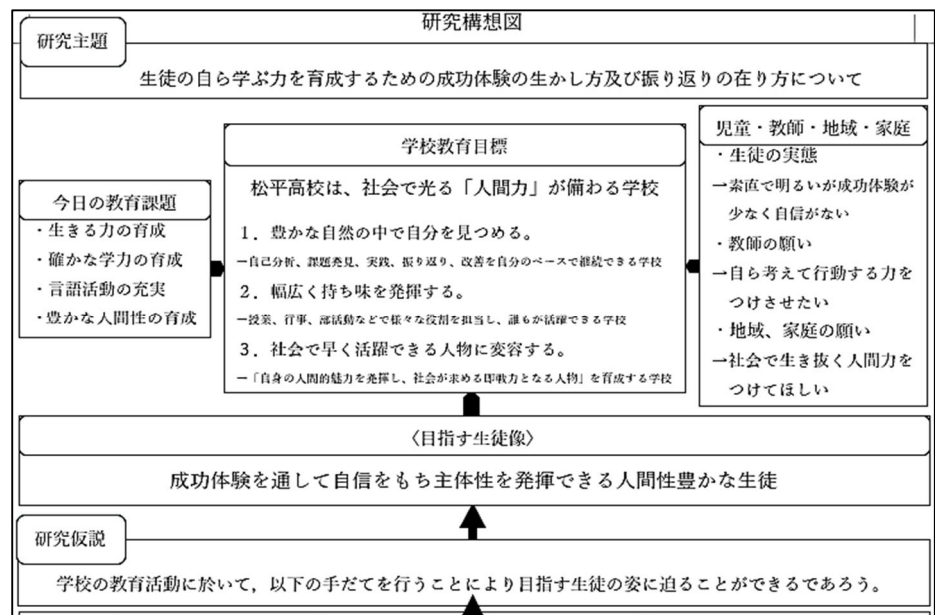
ア 「目指す生徒像」共有までの流れ

校内で「目指す生徒像」を設定及び共有するために、現職研修を開催した。本校教員を幾つかのグループに分け、本校生徒の強みと弱みを整理するためにSWOT分析を行った(資料1)。

強みとして、多くの生徒が素直で明るく、教員から指導されたことはできる一方、弱みとして、自信や主体性が高まらず、自ら学ぶために行動することが苦手な生徒がいることが挙げられた。そこで、本校では「生徒の自ら学ぶ力」を育成するために全教員の願いを込めて「成功体験を通して自信をもち主体性を発揮できる人間性豊かな生徒」を「目指す生徒像」とした(資料2)。

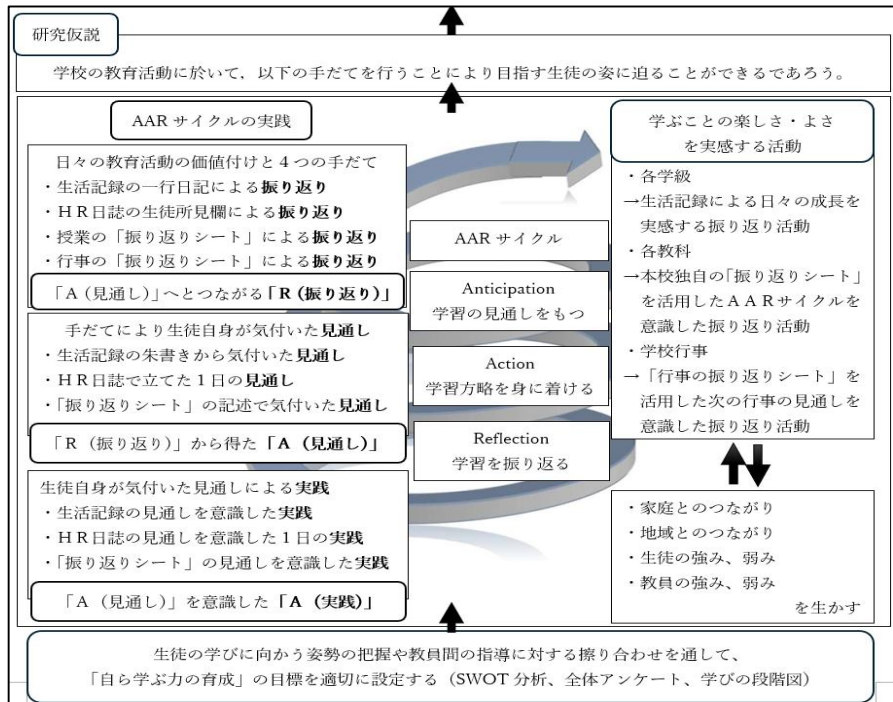
イ AARサイクルと本校独自の振り返りシート作成までの流れ

「目指す生徒像」が教員間で共有されたことにより、教



員による生徒の見方に変化が見られた。また、生徒が成長したと感じられるタイミングで生徒の自信を高める声かけをする教員が増えた。こうしたことから、他にも生徒の自信を高める効果的な手だてを講じる余地があると考えた。後日、再び現職研修を行い、AARサイクルの意義について教員間で共有した。その中で「生徒の自ら学ぶ力」を育成するためには、生徒自身が自分の成長に気付くことから始めることが大切だという結論に至った(資料3)。これにより、本校ではA

【資料3 研究構想図の下部】



ARサイクルの中でも「振り返り」に重点を置くこととし、研究主題を「生徒の自ら学ぶ力を育成するための成功体験の生かし方及び振り返りの在り方について」とした(前ページ資料2)。AARサイクルの推進にあたって本校では各教科で使える汎用的な振り返りシートを作成した(資料4)。AARサイクルの最初のAである「見通し」をもち、単元終了時にこのシートを用いて振り返りを行った。生徒は単元の目標が達成できたかを選択肢から選び、なぜそのように思ったのかを振り返る。そして、その振り返りから自分自身の目標を考え、これでAARサイクルが一回転すると考えた。

ウ AARサイクルと日々の教育活動の価値付け

AARサイクルを意識した振り返りの実践を計画する際に、本校で既に行っている教育活動を改めて見直した。すると、本校では振り返りとして行っている教育活動が多数あり、それらにAARサイクルの視点を加えることが可能だということに気付いた。そこで、本校では「日々の教育活動で、既に行ってい

【資料4 AARサイクルを意識した振り返りシート】

振り返りシート

教科名 ()

単元 ()

日時 (月 日 曜日)

担当教員 () 先生

単元の目標 ()

1. 単元の目標は達成できましたか。 ○ 満足 (できた・どちらかといえばできた・もの足りなかった・改善すべき点が多かった)

2. なぜ単元の目標に対して○をつけたように思ったか書いてみよう。 最低2行以上

3. 「こうしたらよかった」または「こうすればよかった」と思ったことをよく考えて書いてみよう。 最低3行以上

4. 「次はこうしてみよう」と思うことと「そのために次の授業から実践したいこと」を具体的に書こう。

→(次の授業から) したい。

() 年 () 組 () 番 名前 ()

ることがAARサイクルを行う手だてになるのではないか」ということを踏まえ、実践に移す計画を始めた。具体的には、日々の家庭学習時間などを記載する生活記録（資料5）、日直が生徒所見を記入するHR日誌（資料6）、単元や授業ごとに学習した内容を振り返る「授業の振り返りシート」（前ページ資料4）、体育祭など行事ごとに行う、振り返りの作文にAARサイクルの視点を加えることにより、「生徒の自ら学ぶ力」を育成する手だてにできると考えた。

(2) 実践の見通し

ア 生活記録による実践の見通し

本校では生徒が毎日「生活記録」を書く際に、家庭学習時間の他に、その日の出来事や担任に相談したいことなどを一行日記として記述するよう指導していた（資料5）。この「生活記録」にAARサイクルの視点を加えることで生徒の自ら学ぶ力の育成につなげる工夫を行った。「生活記録」に掲げた目標を「AARサイクル」の「A（見通し）」として捉え、生徒は一行日記でその「R（振り返り）」を記述し、教員がその「R（振り返り）」に朱書きをすることで生徒の「A（実践）」を「A（見通し）」に沿ったものに導くようにした。

イ HR日誌による実践の見通し

HR日誌にある生徒所見欄をAARサイクルの視点で活用する方法を考案した。生徒所見欄の真ん中に線を引き、上下に欄を分けた。上段には1日の目標を「A（見通し）」として生徒が朝のST後に記述できるようにし、下段には1日の振り返りを「R（振り返り）」として記述できるようにした（資料6）。そうすることで、生徒は1日の生活の中で「A（実践）」を意識して過ごすことができると考え、1日の中で「AARサイクル」が回るようにした。

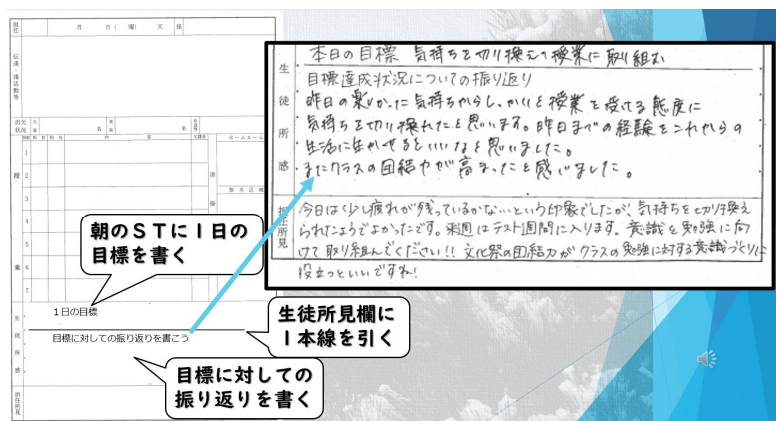
ウ 「振り返りシート」による実践の見通し

研究の1年目に作成した、単元や授業ごとに学習した内容を振り返る、「単元の振り返りシート」では、振り返りシートを記述することで、生徒は次の単元の「A（見通し）」を立てることが可能となり、「AARサイクル」の「R（振り返り）」から「A（見通し）」へとつながることができた（前ページ資料4）。しかし、研究を進める過程で、「A（見通し）」を立てた後に生徒が、どのような「A（実践）」を

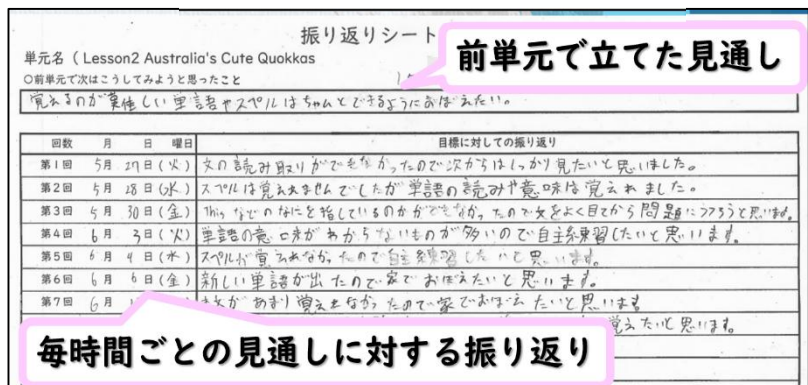
【資料5 生活記録】



【資料6 HR日誌】



【資料7 毎時の振り返りシート】



「A（見通し）」を立てた後に生徒が、どのような「A（実践）」を

行い、どのように行動が変容したかまで見取することで学習効果がより高まると考えた。その手だてとして「単元の振り返りシート」に加え「毎時の振り返りシート」を発売し、「AARサイクル」の二つ目の「A（実践）」における生徒の行動や変容を見取することに重点を置いた（前ページ資料7）。また、前単元終了時の「単元の振り返りシート」で立てた「A（見通し）」が、本単元で「毎時の振り返りシート」の「A（見通し）」となるように工夫をした（資料8）。そして、「毎時の振り返りシート」では「A（見通し）」から「A（実践）」を生徒が記述できるようにし、本単元終了時の「単元の振り返りシート」で「R（振り返り）」を行うことで「AARサイクル」が回るようにした。

エ 学校行事の振り返りによる実践の見通し

本校では従来、学校行事ごとに振り返りの作文を書く活動を行っていたが、その作文に目標を加えることにより、AARサイクルを回すことができると考えた。しかし、生徒によって振り返りの質に大きな差が出てしまうことに気付いた。「AARサイクル」を回すためには、「R（振り返り）」をしながらAARの最初の「A（見通し）」につなげることが大切である。ところが、この「A（見通し）」までを作文の中で記述しきれない生徒がみられ、その生徒を導きたいと考えた。

授業で活用している「単元の振り返りシート」を参考にして、それと同じ質問項目で「行事の振り返りシート」を新たに作成した。これにより、「R（振り返り）」から「A（見通し）」につなげていくことを試みた（資料9）。この「行事の振り返りシート」では、単元目標にあたる項目を行事での目標に置き換え、生徒が事前に記述する様式とした。そして、「行事の振り返りシート」では、体育祭で得た経験を次の文化祭で生かせるよう工夫することで、従来本校が行っていた作文の形式を変えて、「行事の振り返りシート」による実践を試みた。

(3) 実践の内容

ア 生活記録による実践

3年生の生活記録による実践において、抽出生徒①の体育祭までの半月の生活記録を示す。抽出生徒①の体育祭に向けての目標は、「松高1のバケツプレイヤーになる」であった。本校ではバケツトライというビーチフラッグに似た競技がある。

・6月1日（土）の初回の記録は、「打率 10 割打点 1盗塁。すばらしい」と目標と全く関係のないことを書いていた。そこで、「目標に対して振り返りを書こう」と朱書きをした。

【資料8 振り返りシートのつながり】

The diagram illustrates the flow of reflection sheets. It starts with '前単元終了時の振り返りシート' (Reflection Sheet at the end of the previous unit), which leads to 'A見通し' (A Vision). This then leads to '本単元の毎時の振り返りシート' (Hourly Reflection Sheet of this unit), which leads to 'A実践' (A Practice). The 'A実践' section includes a table with columns for '期日' (Date), '項目' (Item), and '確認' (Check). The table contains several rows of data, including dates like '5月21日(木)' and '5月22日(金)', and items like 'この振り返りシートを完成させること' and '自分の振り返りシートを完成させること'.

【資料9 行事の振り返りシート】

The form is titled '事前に記述' (Write before) and '事後に記述' (Write after). It includes 6 numbered questions in both sections. The '事前に記述' section asks about personal goals, target achievement, goal completion, reasons for goal completion, and future plans. The '事後に記述' section asks about goal completion, reasons for goal completion, and future plans. The form also includes a section for '単元の振り返りシートと同じ質問項目' (Same questions as the unit reflection sheet).

・6月3日(月)の記録は、「恋ダンスかんぺきじゃい」とまた目標の競技とは異なる応援で行うダンスのことについて書いていた。そこで、AARサイクルの「A(見通し)」に当たる目標を改めて考えることで、「A(実践)」を日々の生活の中で行うように指導した。その結果として、「バケツのそうじがんばりました」と家でバケツトライの練習をするためにバケツの掃除をするという行動を促すことができた。



バケツトライの様子

・6月5日(水)の記録は「バケツ君と仲良くなってきた気がします」と練習の成果を記述することができた。

・6月6日(木)体育祭当日の記録では「バケツ君と心の距離が縮まりました」と書いていた。この生徒は目標通り全校で1位となり「松高1のバケツプレイヤーになる」という目標を達成することができた。抽出生徒①は、「R(振り返り)」を行うことで「A(見通し)」を意識した「A(実践)」をすることができ、その成功体験から自信を得ることができたと考えられる。

イ HR日誌による実践

体育祭前日のHR日誌について、3年生抽出生徒②の記述を示す。抽出生徒②のその日の「A(見通し)」に当たる目標は、「(リハーサルの)13分間の練習をスムーズに進める」であった。「R(振り返り)」としてのHR日誌の記録では、「今日は朝からビニールテープのポンポンを作るのに必死で漢字のテストがおそろかになってしまいました。ですが、13分間の練習では、全員がポンポンを持ち、本番に近い感じで練習ができてよかったです」と記述していた。



体育祭のポンポンの様子

朝のST後にその日の「A(見通し)」を立てることで、その日にすべきことについて、生徒なりの「A(見通し)」をもつことができ、1日の生活の中で「A(実践)」を行うことができたと考えられる。

ウ 「授業の振り返りシート」の実践

【資料10 抽出生徒③の記述】

前単元終了時の振り返りシート

単元の目標
1. (2)の単元に関する英語で紹介ができる
2. なぜ単元の目標に対して〇をつけたように思ったか書いてみよう。最終2行以上
3. 「こうしたらよかった」または「こうすればよかった」と思ったことを考えて書いてみよう。最終3行以上
4. 「次はこうしてみよう」と思うことと「そのために次の授業で実践したいこと」を具体的に書く。

単元語と発音ができていない箇所があった。単語とそのスペルは必ず覚えて発音ができるようにしたい。

①(次の授業から)覚えておきたい単語は、マクドナルドのメニューを見てスペルを確認しながら発音練習しよう。

本単元の毎時の振り返りシート

単元名 (Lesson 2 Australia's Cute Quokka)	単元目標	目標に対しての振り返り
第1時	5月 27日(水)	元の発音練習ができてよかった。次の次がわかって見たい。1時と2時
第2時	5月 28日(木)	スペルは覚えられたけど、単語の意味が全然わからなかった。
第3時	5月 29日(金)	Thisの発音を練習して、自分の名前も練習した。その次は、自分の名前も練習した。
第4時	5月 30日(土)	単語の意味、スペルがわからなかった。自分で練習して、覚えていく。
第5時	5月 31日(日)	スペルが覚えられた。自分で練習して、覚えていく。
第6時	6月 1日(月)	単語の意味がわからなかった。自分で練習して、覚えていく。
第7時	6月 2日(火)	スペルが覚えられた。自分で練習して、覚えていく。
第8時	6月 3日(水)	単語の意味がわからなかった。自分で練習して、覚えていく。
第9時	6月 4日(木)	スペルが覚えられた。自分で練習して、覚えていく。
第10時	6月 5日(金)	単語の意味がわからなかった。自分で練習して、覚えていく。

振り返りシート

本単元終了時の振り返りシート

1. 単元の目標は達成できたか。〇をつける
(できた、どちらかといえばできた、〇の振り返りがあった、改善すべき点が多かった)
2. なぜ単元の目標に対して〇をつけたように思ったか書いてみよう。最終3行以上
()の中に、単語の意味がわからなかった。自分で練習して、覚えていく。
3. 「こうしたらよかった」または「こうすればよかった」と思ったことを考えて書いてみよう。最終3行以上
単元の文を一番におぼえておぼえる。単語の意味も覚えておぼえる。単語の意味も覚えておぼえる。単語の意味も覚えておぼえる。
4. 「次はこうしてみよう」と思うことと「そのために次の授業で実践したいこと」を具体的に書く。
①(次の授業から)単語の意味も覚えておぼえる。単語の意味も覚えておぼえる。単語の意味も覚えておぼえる。

A実践

R振り返り

単語の自主練習の次は、文を覚えて自主的に振り返る事をしたい。(A見通し)

A見通し

「英語コミュニケーションⅠ」の授業における1年生抽出生徒2人の振り返りについて例示する。真面目に授業に取り組む抽出生徒③は、前単元終了時の振り返りで「覚えるのが難しい単語はマークをしてスペルを覚えてからペアの生徒に紹介する活動に移るようにしたい」と記述し、それを次の単元における毎時の「A（見通し）」に当たる目標とした（前ページ資料10、11）。抽出生徒③は、本単元の毎時の振り返りで「単語の意味が分からないものが多いので自主練習したい」と記述した。前単元で決めた「A（見通し）」を意識し、行動することができたことが読み取れる。また、「本文があまり覚えられなかったので家で覚えたい」と記述があり、「A（見通し）」に当たる目標を達成するために、自ら学ぼうと行動する姿勢が見られた。そして、「本文を覚えて問題を完璧に解けた」と記述があり、成功体験を通して自信をもつことができたと考えられる（資料12）。本単元の「毎時の振り返り」

【資料11 抽出生徒③A見通しの記述】

4. 「次はこうしてみよう」と思うことと『そのために次の授業から実践したいこと』を具体的に書こう。

単語と紹介ができていない所があったので単語とそのスペルは必ず覚えて紹介が一度も本文をかくにしないでできるようにしたいです。

→(次の授業から) 覚えるのが難しい単語などはマークをしてスペルなどを覚えてから紹介にうつるようにしたい。

【資料12 抽出生徒③A実践の記述】

○前単元で次はこうしてみようと思ったこと

覚えるのが難しい単語やスペルはちゃんとできるようにしたい。

回数	月	日	曜日	目標に対しての振り返り
第1回	5月	27日	(火)	文の読み取りができてなかったのが次からはしっかり見たいと思いました。
第2回	5月	28日	(水)	スペルは覚えたいと思ったが単語の意味は覚えませんでした。
第3回	5月	30日	(金)	Thisなどのなご指しているのがわからなかった。その女をよく目から問題。
第4回	6月	3日	(火)	単語の意味がわからなかったものが多いので自主練習したいと思
第5回	6月	4日	(水)	スペルが覚えなかったのが自主練習したいと思
第6回	6月	6日	(金)	新しい単語が出たので家で覚えたいと思
第7回	6月	11日	(水)	本文があまり覚えなかったのが家で覚えたいと思
第8回	6月	13日	(金)	本文を覚えて問題を完璧に解けたので12回の体力のちを覚えたい

【資料13 抽出生徒③次のA見通しの記述】

4. 「次はこうしてみよう」と思うことと『そのために次の授業から実践したいこと』を具体的に書こう。

次回からは文を一番におぼえ、自主的にでも振り返りをすることです。また、時間により、紹介ができるように教えられたその日に振り返りをしようと思

→(次の授業から) 単語などは、'is', 'and', 'the' などで覚えて覚えてから打撃、定期的に教えられた事を振り返る事をしたい。

【資料14 抽出生徒④の記述】

前単元終了時の振り返りシート

単元名 (Lesson2 Australia's Cute Qu...)

○前単元で次はこうしてみようと思ったこと

覚えるのが難しい単語やスペルはちゃんとできるようにしたい。

1. 単元の目標は達成できましたか。○をつける
(できた・どちらかといえればできた・もの足りなかった・改善すべき点が多かった)

2. なぜ単元の目標に対して○をつけたように思ったか書いてみよう。最終3行以上

自然に覚えるのが難しい単語やスペルは覚えてから紹介したいと思

3. 「こうしたらよかった」または「こうすればよかった」と思ったことをよく考えて書いてみよう。最終3行以上

単語のスペルを覚えてから紹介したいと思

4. 「次はこうしてみよう」と思うことと『そのために次の授業から実践したいこと』を具体的に書こう。

New Words 2 (単語) を覚える

→(次の授業から) 覚えるのが難しい単語などはマークをしてスペルなどを覚えてから紹介にうつるようにしたい。

本単元の毎時の振り返りシート

回数	月	日	曜日	目標に対しての振り返り
第1回	5月	27日	(火)	文の読み取りができてなかったのが次からはしっかり見たいと思いました。
第2回	5月	28日	(水)	スペルは覚えたいと思ったが単語の意味は覚えませんでした。
第3回	5月	30日	(金)	Thisなどのなご指しているのがわからなかった。その女をよく目から問題。
第4回	6月	3日	(火)	単語の意味がわからなかったものが多いので自主練習したいと思
第5回	6月	4日	(水)	スペルが覚えなかったのが自主練習したいと思
第6回	6月	6日	(金)	新しい単語が出たので家で覚えたいと思
第7回	6月	11日	(水)	本文があまり覚えなかったのが家で覚えたいと思
第8回	6月	13日	(金)	本文を覚えて問題を完璧に解けたので12回の体力のちを覚えたい

振り返りシート

教科名 (英語)

単元名 (Lesson2 Australia's Cute Qu...)

単元日 (5月27日～6月13日)

担当教員 (佐藤)

単元の目標 (単語の意味やスペルを覚えてから紹介できるようにしたい)

1. 単元の目標は達成できましたか。○をつける
(できた・どちらかといえればできた・もの足りなかった・改善すべき点が多かった)

2. なぜ単元の目標に対して○をつけたように思ったか書いてみよう。最終3行以上

自然に覚えるのが難しい単語やスペルは覚えてから紹介したいと思

3. 「こうしたらよかった」または「こうすればよかった」と思ったことをよく考えて書いてみよう。最終3行以上

単語のスペルを覚えてから紹介したいと思

4. 「次はこうしてみよう」と思うことと『そのために次の授業から実践したいこと』を具体的に書こう。

単語を覚えてから紹介できるようにしたい。

A 実践 **R 振り返り**

単語を覚える工夫の次は、単語だけではなく文で相手に紹介できるようにしたい。(A見通し)

【資料 18 抽出生徒⑤の記述】

1. 体育祭に向けて個人の目標を立てよう!
※〇ができた/できた。など達成状況がわかりやすい目標を立てると良い。

私の体育祭の目標は…
1・2年生の年本となるように行動する
優勝する、思い出し百発の体育祭に

2. 目標を達成するために、体育祭までにどんなことを取り組もうと思いますか?
※箇条書きで構いません。どんな役割や仕事をするか書いてみよう!

すばやく行動
みんなで協力する
1・2年生に積極的に声かけ

B) 以下に関しては体育祭終了後に書こう!

3. 体育祭の目標は達成できたか? ○をつける。
(できた・どちらかといえばできた・もの足りなかった・改善すべき点が多くあった)

4. なぜ体育祭の目標について↑の○をつけたか書いてみよう。(最低3行以上)

みんなとチーム行動して、優勝することを目標から、すばやく行動して、協力する=これです。1・2年生に声かける勇気が出ず、積極的にダンスを教える=これができなかった。

5. 『こうしたらよかった』または『こうすれば良かった』と思うことをよく考えて書いてみよう。(最低3行以上)

ブローチの製作も、前日しか手に入らなかったのも、もっと早い段階から開始すればよかった。ただ、思いは、私はできることはない。完成を待たないで、早く段階で私にやるべきあるか聞かせるのを思いつく。1・2年生に教えるのも、早くできた方がいい。自分から、大きな声かけてあげることができた。

6. 『次はこうしてみよう』と思うこと『この体育祭を通して次の文化祭ではこのように改善したい』と思うことを具体的に書いてみよう。(最低3行以上)

準備の早い段階から、自分から声かけたいと思っていました。また、得意に目を向けることがあつたので、もっと同じを見てもらうと思います。

⇒(次の文化祭では) 自分のできることは、早めにやり、手が足りないところがあったら気付いたときにすぐ行動に移すようにしたいと思います。

るのも上手くできなかったの自分から声をかけた方がよかった」と答えている。次こそは自分から行動したいという意欲が読み取れる。体育祭に続く文化祭の目標は、「自分のできることは早めにやって、手が足りないところがあったら、気付いたときにすぐ行動に移すようにしたいと思います」と記述し、1・2年生に声を積極的にかけられなかった経験から、文化祭ではクラスメイトに声をかけ、すぐに行動したいという目標を立てることができた。体育祭の振り返りから、文化祭への見通しへとつなげることができたと考えられる。

不登校の傾向がある3年生の抽出生徒⑥は、体育祭の目標を「後悔のない体育祭にする」とした(資料19)。振り返りでは、「体育祭の目標が達成できたか」という質問で、「できた」と答え。その理由として、ダンスを本番で間違えなかったこと、クラスメイトとたくさん写真を撮ってとても楽しかったこと、準優

【資料 19 抽出生徒⑥の記述】

1. 体育祭に向けて個人の目標を立てよう!
※〇ができた/できた。など達成状況がわかりやすい目標を立てると良い。

私の体育祭の目標は…
後悔のない体育祭にする。

2. 目標を達成するために、体育祭までにどんなことを取り組もうと思いますか?
※箇条書きで構いません。どんな役割や仕事をするか書いてみよう!

ダンスや種目を青ブローチの子達と楽しもう
頑張る。

B) 以下に関しては体育祭終了後に書こう!

3. 体育祭の目標は達成できたか? ○をつける。
(できた・どちらかといえばできた・もの足りなかった・改善すべき点が多くあった)

4. なぜ体育祭の目標について↑の○をつけたか書いてみよう。(最低3行以上)

ダンスの練習を沢山して、本番まで大丈夫でした。ダンスの子と沢山写真とって、とても楽しかったです。準優勝もして、3年間の中で、一番楽しい体育祭でした。自分も手伝って楽しかったです。

5. 『こうしたらよかった』または『こうすれば良かった』と思うことをよく考えて書いてみよう。(最低3行以上)

障壁物リレーで、聲のウケとをした時に木村の子とならば上手にボールをばらめなくて、4位になってしまいました。声かけをしなかった。もう少し早くゴールができたんじゃないかなと思います。

6. 『次はこうしてみよう』と思うこと『この体育祭を通して次の文化祭ではこのように改善したい』と思うことを具体的に書いてみよう。(最低3行以上)

次は、クラスの子と声をかけあつた。意見を聞きあつたこと、みんなと協力して、楽しもう。今回の体育祭で、クラスの子と仲良くしたいので、協力していきなうと思います。

⇒(次の文化祭では) クラスの子に協力して、声をかけあいながら楽しい文化祭にしたいです。

勝を勝ち取ることができて3年間で一番楽しい体育祭になったこと、旗の作成を手伝って楽しかったことを記述している。事前に立てた「後悔のない体育祭にする」ことが、本人の満足がいく形で達成できたことが読み取れる。そして、「こうしたからよかった、またはこうすればよかった」という質問には、障害物リレーで4位になったことに言及し、「声かけをしながらやったら少しは早くゴールできたんじゃないか」と答えている。生徒自身で声かけの大切さに気付くことができたことが読み取れる。文化祭での目標は「クラスの子に協力して声をかけあいながら、楽しい文化祭にしたいです」と記述し、具体的に改善点を示しながら、体育祭の「R（振り返り）」から文化祭の「A（見通し）」へとつなげることができた。

3 実践の成果と課題

成果として、日々行っている教育活動に「AARサイクル」の視点を加えることでサイクルを回すための手だてとなり、その手だてによる振り返りをする中で、生徒が自身の成長に気付き、自信をもつきっかけとなり得ることが分かった。また、「R（振り返り）」から生徒自身が目標を立てることで、より自分事として「A（見通し）」をもち、日々の生活を送ることができると見て取れた。

次年度以降の課題として、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について研究を進めたいと考えている。本研究で作成した振り返りシートを生かすことが手がかりになると期待を胸に、これからも振り返りの在り方を考え、生徒の成長を1つでも多く見取り、支えていきたい。

4 おわりに

生徒の自ら学ぶ力の育成の更なるを推進に向けて、今後も次の3点を押さえることにした。

- ① 全教員で生徒の強みと弱みについて話し合い、「目指す生徒像」を設定し共有した上で、そのためにどのような手だてが有効であるかを明確にする。
- ② 「AARサイクル」を回す視点をより明確にするため「A（振り返り）」で終わるのではなく次の「A（見通し）」を生徒が立てることができる手だてを振り返りシートを作成する際に工夫する。
- ③ すでに行っている本校の教育活動をAARサイクルの視点に立ってよりよいものになるよう見直す。